

今日の講演会を聞いて感じたこと、印象に残ったことを書いてみよう。

妻の中絶手術を手伝わされたという話に、信じられない気持ちになりました。このようなことが二度と起こらないで欲しいです。

私たちが生活しているこの国で本当にこんなことがあったのだと改めて感じ、差別の残酷さを知りました。

・初期の国のコロナ対策によって、国がコロナは怖い病気とした結果、不登校になってしまった同級生がいた。正しい知識×正しい行動はセットで身につけるべきだと思う。

とても考えさせられる時間でした。
10時間しか生きられなかった6ヶ月の子の真理子ちゃんの話聞いた時にとっても心が痛くなりました。とても印象に残っています。
また、そのご遺体をホルマリン漬けになぜしたのかがとても気になっています。
普通にお墓に入れたらいいのに、なぜ残しておく必要があったのかが知りたいです。

赤ちゃんが亡くなる？話をしていた時のやつで、自分は健康に生まれけど普通の生活が出来なかった子とかがいると知ってこのこと自分の子供や孫の世代まで伝えていきたいとおもいました。

ハンセン病は授業で聞いたりネットで調べるぐらいしか知らなかったが、資料館の方の話を聞いてよりハンセン病に差別や実態について知れた。

限られたことしかできない環境の中で絵を描く人がいたり運動する人がいたりまるで1つの社会のようだなと思いました。

自分がその立場になった時に初めて差別が生まれるということにとっても深く心を打たれた。

ハンセン病にかかってしまっている親がいる子供が学校に入学できないのはひどいと思いました。でも今は治る病気として扱われていることに安心しました。

ハンセン病の話は本屋資料を読んだだけでわかりづらかったので、詳しく聞けてよかった。とてもいい経験だと思う

地元に全生園があるのでハンセン病については知識があったが、今日の講演でまた新しいことを知れたと思う。
第三者からの立場だけでなく、自分の立場になった時のことを考えることが大切だと感じた。

手を差し伸べようとした集団など居たけれど、偽善で手を差し伸ばしたということがわかったこと、自分は第三者だからという意見を出した後自分が当事者になると差別を露わにするのが怖いと思いました。

黒髪小学校はハンセン病に対して厳しい社会であったのにも関わらず問題だとされていると知って、差別があったといっても地域や人によって差別の大きさが異なっていたとわかった。自分は社会全体がそのような差別をしていると思っていたので驚いた。

ハンセン病の問題はハンセン病患者の方だけの問題ではなく、私たちもその問題について考える必要があるということ

6か月で中絶されて取り出された赤ちゃんのお世話をしているシーンがとても悲しかったです。自分ができることはなにか考えさせられました。

ハンセン病の件については社会科の授業である程度は習っていたが、実際に話を聞いてみて、本当に現実で起こったことなんだと実感し、これから先の時代で二度とこのような差別が起きなくなって欲しいと思った。

年表を見ながら時代の流れに沿ってハンセン病について理解することができた。ハンセン病の隔離施設で患者の方々が絵を描いたり詩を詠んだりしていたことが印象に残っている。

中絶手術を自ら行わなければならないということに驚いた。看護師たちはどういう思い出手術を放り出して休み時間に入ったのかと思った。自分の子供を見たときかなり辛いだろうなと思った。

手術を放置して出て行った看護師たちは本当に正規の人なのかなと思いました。

ハンセン病患者さんの間でできた子供は中絶させられてしまうことは知っていたけど、手術中に看護師が出て行ってしまった事があったと言うことにとっても驚きました。

差別は自分の立場になったら出てくるっていう言葉を聞いて確かにその通りだなと思いました。だから自分がその立場に来た時のために正しい情報を持って差別しないような人間になりたいと思った。

ハンセン病はかわいそうなものじゃなくて人権の侵害だということをもっと早く気づければ今結果は変わっているのかもしれないと思った。

中絶がとても怖いと思いました。少し前の日本で行われていたことということが信じられないです。2度とこのようなことを繰り返しては行けないと思いました。

黒髪小学校の事件で保護者が大反対したことが印象的でした。

妊娠中絶で生きるはずの胎児がでホルマリン漬けにされることがショックでした。火葬さえせずに体だけあるホルマリン漬けになれる状態自体も人権侵害だと思います。自分の子が息絶えていく過程を話す言葉は聞いているだけで恐怖でしたし、自分が深く傷つくことだと感じました。

差別は自分の身になって初めて現れるという話

ハンセン病が薬で治ると言われ始めた後にも黒髪小学校のような事件が起きていたということにおどろきました。自分が当事者だったら、正しい情報が何なのかを調べて正確な情報を理解した上でどうしたいか、どうすべきかを考えたいと思いました。

昔でハンセン病にかかった人は隔離しても法律で決まっていたから仕方ないのかもしれないのかもしれないけれど、その人の感染していないはずの子供まで隔離したり、産ませちゃいけないようにするのは良くないと思った。

差別はいけないと思いました

ハンセン病について聞いてたくさん差別があったことがわかった。小学校の話は映画の監督の当事者にならないとわからないということが大切な例で話を聞いている時に自分は関係ないと思わないで、しっかりとそのことについて考えることが大事だと思った。ハンセン病について授業と講演くらいしか聞くことがなかったのこれからハンセン病について聞くことがあったらしっかり考えようと思う。

真理子さんの話が印象に残りました。とてもショックな内容でした。

ハンセン病について知ることができ、とても為になりました。差別をした側も苦しむという話にハッとしました。

国の間違った政策で人生が台無しどころか生まれることすら許されなかったことに衝撃を受けました。また、コロナ初期の時代にも差別があったことに疑問を感じました。

新型コロナウイルスと似ているように感じました。ハンセン病は菌が見つかったから薬が出来上がるまでに70年近くかかっている、現在のコロナウイルスも薬ができるまでに50年近くかかってしまうのかと心配になりました。

新型コロナウイルスが出てきた最初、ハンセン病患者の人はどう思ったのか気になりました。もし私が当時のハンセン病患者で、今も生きていたら、昔の二の舞になるのではないかと心配で胸が押し潰されていた気がしました。

ハンセン病にかかっていなくても家族がかかっただけで差別されることに驚いた。また、ハンセン病患者の隔離政策による被害は他人事ではなく自分ごととして捉えて、今までもこれからもしっかり考えていかなくてはいけない事柄だと改めて感じた。

黒髪校事件で第三者の立場なら味方について入学させてあげる方を勧めるのに当事者になった途端困りますなどと言って突き放すのは本当にひどいと思った。

地域内の差別なら訴えるなど差別をなくす方法があるけれど国が法律で人を差別しようとしたのはおかしいと思うし、差別を国が促進しているようで当時の日本の偉い人たちは何を考えていたんだろうと疑問に思った。

ぼんやりと第三者目線にいる時ではなく当事者になった時にこそ差別というのは起こるのだという言葉が心に刺さりました。全くその通りだなと思いました。いじめでも差別でも、身の回りや世界中で、今この瞬間にも起こっていると思うと私も周りの人たちも、誰もが自分ごととして考えるべきであり、共に生きる中で少しでもより良い方向へ全員の心も含めた動きが必要なのだと考えました。

印象に残ったのは、真理子さんのお話です。聴いていて、胸が締め付けられるように悲しくなりました。と同時に許せないという思いも込み上げてきました。このような差別によって犠牲となる人が少しでも減る世の中になると良いなと感じました。そのために自分たちに出来ることをやっていきたいと思います。

ハンセン病などでの差別は絶対にしてはいけないと改めて考えさせられた。

すごい辛い話が最近まであったのが怖いと思いました。

まりこさんが生まれることが許されなかったと聞いて、悲しい気持ちになった。ハンセン病になった人も、その子供も罪はないのに、国が行ったハンセン病患者の対処の方法が影響し、差別が生まれたのだとわかった。

学校の話の時に自分のことになった時に差別が生まれるとおっしゃっていて確かにそうだなと思いました。ハンセン病だけに限らず差別的な考えは無くしたいと思いました。

差別をした人も辛い思いをするということが印象に残りました。ハンセン病の差別を知って、どうしたらいいのか分かりました。

ハンセン病の患者さんが絵を描いたりしていてすごいなと思いました。もし、今後ハンセン病のような病気が流行ったときに同じようなことにならないようにしたいです。

ハンセン病にかかった人だけでなく、その家族も差別を受けていたことは知らなかったです

人権と差別について考えることができた。

ハンセン病について名前だけは知っていましたが内容は知らなかったので詳しく聞くことができよかったです。差別問題について興味が湧きました。

妊娠して、6ヶ月目で中絶したという話で、手術を手伝うということになったというのは今では考えられず、とても驚きました。また、赤ちゃんを少しでも生きさせようとするために、ミルクを与えたりしたという話はとても悲しかったです。

ハンセン病に感染した方達の苦しみを完全に分かることは難しいですが、家族を失う悲しみはとても辛いものなんだろうと思いました。

知識を持っていても、自分が当事者の立場に立って考えることが大切だと思いました。

ハンセン病にかかってしまったと言うだけで何も悪いこともしていないし何か人に迷惑をかけるわけでもないのに差別され国から隔離されるなんてすごく理不尽だし、かかってしまった人はたくさん辛い思いをされたんだろうなと感じました。

ハンセン病の実態についてより詳しく知れた

差別や中絶など残酷なことがあったり、ハンセン病が治っていたり関係ない人でも酷い差別を受けてしまっていたりしていたのが印象に残りました。ハンセン病のことは知っていたけれど、詳しいことは今回しっかり知れました。身近でも、差別やいじめが起こらないように心がけようと思いました。

ハンセン病はかかった人だけでなく周りの人も大きく影響を受けたということを知りました。自分ではない誰かの話だと相手のことを考えられても当事者になるとそんなにも視野が狭くなってしまふんだなと思いました。自分は、ちゃんと考えられるようにしたいです。

ハンセン病の映画を見たことがあるので知ってはいましたが改めて資料館の話を聞いて差別が自分のことになってからわかるという言葉に何か考えさせられるものがありました。

差別について中学生でも出来ることという質問に対しての答えが聞いてよかったです。

黒髪小学校の話を聞いて、「差別を自分ごとに考える」という意味がよく分かった。第三者目線からは、寄り添ってあげられても、いざ自分に関連すると考え方が変わって、相手の思いを遮ってしまうことがあると分かったので、自分ごととして考えられるようにしたい。ハンセン病患者の方々が絵を書いたり、文字にして本を作ったりと、実際に差別に会ってしまった人がありのままを伝えてくれていることに感謝したいと思った。

差別の歴史が結婚と中絶にもつながっていたことを初めて知りました。また衝撃を受けました。

ハンセン病について詳しく知れたので良かったです。

ハンセン病にかかってしまったというだけでこれだけ大変になってしまうのは悲しいなと思った。

私たちも他人事としてではなく自分ごととして捉えられるようにしたいです

ハンセン病患者から産まれた子どもを殺してしまうという話が聞いていてとても悲しかったです。

ハンセン病の人は普通の人では考えられないようなひどい事をされたんだと知りました。
新しい命も失われたんだと思うととても心が痛いです。今は少しでも改善されてると嬉しいです。

ハンセン病の患者さんのお子さんが小学校に入学することを、その小学校の児童の保護者が反対した話。なぜその小学校のみそのようなことが起きたのか疑問に思った。

人権というのはハンセン病だけではなく様々なことに注目をしてじっくりと考えたい。

赤ちゃんとのエピソードがとても悲しくて胸が張り裂けそうだった。
差別は当事者になって初めて実感するということに強く共感した。

妊娠したら中絶しなければならぬという話を聞いて辛くなった。

金陽会？の方が今も活動を続けていることが素晴らしいと思いました。

中絶しても少しでも長く娘に生きさせてあげたいという思いが凄くて、印象に残っている。

桜井さんの10時間生きたお子さんの話が印象に残りました。その話の中で「生まれることさえ許されなかった」という言葉が最も印象に残った言葉です。差別によってその人の人生の可能性を変えてしまうということにすごく重みを感じて、すごくいい機会になりました。

差別が人権侵害に関わっていたこと、またハンセン病だけに関わらず、いじめやインターネットにおける誹謗中傷にも関わっているのだと知り驚いた。

断種と中絶のところでもう長く生きられない赤ちゃんを最後まで諦めずにできるだけ長く生きられるようにお世話をしていたということが印象的でした。

最近コロナウイルスがはやっていて、感染症からなる差別について身近に感じました。これからコロナ等関連で差別が起こらないよう、私たちが少しでも働きかけようと思いました。

一度しかない人生のほとんどを拘束されて過ごすのはとても辛いことだと思うのでそういう対応をした国は酷いと思う。時代に関係なく差別があったんだと知った。

中絶したあとまだ少し息がある赤ちゃんを抱いてたというエピソードが印象に残った。中絶を手伝わせるのもひどいし、必ず妊娠しちゃいけないも悲しいなと思った。

ハンセン病は前からある病気なのに年表で見ると2008年まで政府が縛り付けていた(?)のが驚きました。
途中で見た絵の描くまでの過程を聞いたあと、絵の見え方がガラッと変わりました

ハンセン病に限らず差別はいけないということ意識できた。
ハンセン病に関係することではないが、中絶手術を素人が正確にできるものなのかと思った

第三者と自分に関わるという話がとても印象に残った。

情報をしっかりと知ることの大切さを改めて知れました。特に真理子さんのお話を聞いた際にもう国がしっかり調べて変な噂を流さなければ真理子さんは今生きていらっしやっただろうし、こんな辛い思いを真理子さんの親はしなかったと思います。情報は信用できることから取るべきだと思いました。

ハンセン病について詳しく知らなかったので、改めて知ることができてよかったです。

ハンセン病患者の方やその家族への差別が長い間続いていたことは良くないことだと思いました。

真理子ちゃんとそのお父さんのお話

病気にかかってしまっただけで人として見てもらえないような酷い扱いをされた人がいることに衝撃を受けました。お話にあった中絶の時に昼休憩に入る看護師は看護師と呼んでいいのかを疑いました。

国の間違った政策や差別によって人生が大きく変わってしまった人がいることを知って驚いたのとともに、今後同じ事が起こらない様にしたいと思いました。

病気に罹っただけで、自分の意思関係なく収容され差別されていた事日本にあった事が悲しかった。これからこういう事が起きないように自分でも考えたい。

差別した側も傷つくということに衝撃を受けた
被害者の方も平等に暮らせる社会になればいいなと思います

差別をした人も社会的地位を失うなどの事があるとは知らなかった。

今ではありえないような話で驚いた。人権は尊重されるべきだと思った。

あまり重く受け止めたことがなかった差別問題についてしっかりと考えることができた。
けれど、自分が当事者となった時に本当に差別をしないと自信を持ってないので、これからは正しい知識を身につけたいと思う。

差別について改めて考えさせられました。いざ自分のことになると差別は顔を出すということに気付かされ、小さなことからでもハンセン病について理解していきたいと思いました。

今でも世界で続いているであろう差別について考えるきっかけになりました。

なんでホルマリン漬けにするんだらうって思った
絵が綺麗だった

絵以外にも趣味でやっている人たちがいるのが印象に残った。

ハンセン病の問題は遠い昔の話ではなく、今の時代にも同じようなことが十分起こりうるということが分かりました。少しでもそのようなことが起こらないようにするために、身近なこととして問題を捉え、自分なりによく考えて行動することが大切だなと思いました。

身近な差別やいじめを自分ごとと考える事が大切だと思いました

ハンセン病のことを忘れられないよう後世に受け継がなくてはならないと思った。

政府によって人権が侵害されていたというのを知ってびっくりした。

ハンセン病について色々知れた。中絶をしたりひどい差別をしたり、ありえないと思うことが多かった。

他人事じゃなくて自分事で捉えるのは大切だなと思いました

ハンセン病についての歴史は知っていたけれど、実際の体験者の言葉(小説)を聞いたのは初めてで、残酷な出来事に固まってしまった。自分から積極的に調べることがなかったため、とても貴重な話だった。

自分の立場にならないと差別というものが深刻に感じないという監督の言葉が印象に残った。

ハンセン病だけでなくいじめなどにも共通する考え方なんだなと思った

ハンセン病の患者の人の中絶の話聞いて胸が苦しくなりました。ハンセン病に限らずいまだに残っている思い込みの差別に関心を持ちました。

ハンセン病の政府の対応によって、世間のハンセン病に対する考え方が差別的なものになったということがわかった。治る病気かという以前に差別をして人権を侵害することは絶対にあってはならないと思った。

差別に対して本当に嫌悪感がある。それなのにも関わらず、もしかしたら自分がやっちゃっているかもしれないと考えたので、人に平等に接しながら行きたいと思った。

ハンセン病の差別が最近まで残ってたことに驚いた。ハンセン病以外でも、過去にあった差別を私が変わることはできないから昔のことを知り学ぶことが一番大切なのかなと思った。このような機会を増やして今後に繋げていく必要があると感じた。

改めて、ハンセン病により人生被害を受けた人々の過酷な生活や国の間違えた政策の残酷さについて深く学ぶことができました。また、「厚い壁」という映画の監督の方が述べていた「差別は物事を自分のことと捉えたときに生まれる」ということにとっても共感しました。今回の講演会を通して、家族で差別問題について話す機会をきちんと取ろうと思いました。

ハンセン病の差別は自分が思っていたよりずっと極端なものでした。このことは隠そうとするのではなく、史実として過去の政府を含めた人々の過ちとして後世の人に伝え続けていくべきだと思いました。

ハンセン病の患者の方が描いた絵に込められていた意味を知り、自分の身に起きたらどれほど辛いんだろうと思いました。また、知識だけではなく感情で差別してしまうことがないようにしたいです。

中絶の話には衝撃を受けました

中絶の話がとても印象に残った。確かに差別問題はいくら差別はいけない、人権は平等にみんなにあると分かっているけれども実際に当事者になってみないと感じない気持ちがあるだろうから難しいと思った。

断種や中絶など人権が尊重されていなかったことに驚きました。ハンセン病問題に限る話ではないですが他人事にせずしっかり考える必要があると感じました。

強制的に中絶手術を受けさせられてしかもその手術の途中で看護師さんが居なくなるのは本当に良くないことだと思った。

過去の事件のことを聞いて、大変なことがあったんだなと思いました。

実際に小説として残された中絶の話や小学校の受け入れの話が印象に残りました。

昔はハンセン病の人に対する差別が酷かったのだと驚いた。

ハンセン病をはじめとした差別たちは、様々な人たちに傷を残す事を再確認しました。

ハンセン病がこんなに長くの間問題視されているのは、患者にとってとても辛いことだと思った。

自分の子供が長く生きられないことを知りながら、1分でも長く生かそうとしたその行動が、母親としてしてあげられるようにしようと感じられてなおさら悲しくなりました。また人権を重視すると掲げている日本の法律が、人権を侵すような法律が作られるというこの矛盾は、今後決してあっては行けないものだと思います。

今回話を聞いて、赤ちゃんの話が一番驚いた。可哀想だったしどうしてそこまで差別してしまっていたのか理由が気になった。

差別は自分が当事者になったときにあられるという言葉が強く心に残りました。

差別をする人もされる人も大変だということがわかりました。

差別をなくすためには一人一人がハンセン病のついて理解することが必要だと分かった。

エピソードが凄く壮絶で印象的だった

自分の身近にない病気だったので最初はあまり実感がなかったが、講演を聞いて身近で差別や人権について考えるべきと感じた。とても悲しい辛い経験した人たちがいることをしっかり知ることによって過去のことを伝えていくべきだと思う。

実際に会った詳しい話などを知れてよかった。絵や小説など、娯楽を見つけて前向きに生活していてすごいと思った。

差別は自分のことになってはじめてわかるということが印象に残った

実際に中絶を体験した方のお話がとても印象にのこりました。お話にあった通り、自分ごととして考えるべきだなと感じました。

差別はしてはいけないな思いました。

また、今回の内容を自分ごととして捉えて身近でそのようなことがあったら助ける側になりたいと思いました

差別問題などを他人事だと思わず、重要視して自分に出来ることをしていきたいと思いました。

ハンセン病患者の人が差別を受けていたことに対して私が当事者だったらと思うとすごい怖いです。ハンセン病の差別に限らず差別をしてはいけないと改めて思いました。

ハンセン病の凄まじい差別の歴史を知れました。

差別は自分が当事者になったとき現れる。言っていてたしかにその通りかもなと思えずごく印象にのこりました。

日本の国会の過ち、差別について考えるいい機会だった。差別など民衆の誤った知識、感情を助長させるのはどの時代も国であると思った。

ハンセン病の時長い間にわたって差別、苦しむ人が多かったけど今のコロナ禍ではそういった事例が早期に収まったことは、医療技術と人々の認識の変化が見えてるのかなあと思いました。

ハンセン病患者が産んだからといって、生まれた赤ちゃんをずさんな扱いをするのは酷いと思いました。

中絶の話に心が痛みました。
差別は当事者になってから現れるという言葉もとても印象に残っています。

病気の人が家族関係にいと差別されるのは違うと思った。

人権侵害は酷いことだと改めて認識できました。

赤ん坊の話が印象に残りました。差別を自分のこととして考えようと思いました。

授業で習ったホルマリンづけですが、実際に自分の子供で体験された方の文章を読むと授業で聞いた時よりもとても心が痛みました。勝手な偏見、差別により多くの人の命が奪われたり人権を認められなかったというのが絶対にあってはいけないことなのでもっと色々な人に知ってもらわなければならないと感じました。

黒神？学校事件とことが印象に残った

ハンセン病という病気のことを知っていたが、こんなにも無惨で言葉で言い表せないほど、多くの方の人生が台無しになってしまったことを初めて知った。

ハンセン病に罹ったご本人の方や、ご家族の方々についての当時の心境などを語り継いでいかなければならないと感じた。

ハンセン病という名前は聞いたことありましたが、具体的な差別内容等を聞いたのは今日が初めてでした。思っていたよりずっと辛い経験をしてきていた人が多くいることがわかって、びっくりしたと同時に悲しくなりました。

今後2度とこのようなことが起こらないようにしたいと思いました。

中絶手術を夫の桜井さんも手伝ったということに驚きました。こんな残酷なことをもう二度と繰り返さないようにハンセン病のことを知らない人にも知ってもらいたいなと思いました。

赤ちゃんが中絶させられていたという話が特に辛かったです。中絶だけでも辛いのに、手術に立ち会うことになった、しかも赤ちゃんが命を引き取るまで面倒を見たというのが凄く切なかったです。差別は当事者になつたら現れる？でしたっけ、凄くその通りだなあと思いました。差別について考えさせられました。

赤ちゃんの話が悲しくてとても心にのこりました

今日の講演で印象に残ったことは、ハンセン病患者の方の赤ちゃんを中絶した話です。少しでも長く生きてほしいと思ってミルクをあげたり、温めたりなくなってしまう命だとしてもその方にとっては大切な子供なんだなと思いました。

ハンセン病患者さんに対する差別の酷さについて改めて知ることができた。私の近くに患者さんがいたらもしかしたら少し差別意識が生まれてしまうかもしれないと思ったが、もし自分が患者だったらと考えると苦しくなった。これからの世の中で新たな差別が生まれないようにその人の立場になって考えたい。

6ヶ月だと赤ちゃんも結構大きし、中絶が難しいと思うのにそれでもおろさせるのはとても残酷だなと思いました。息しているのを見ていても生きさせちゃいけないのはお父さんからしてもすごい辛いだろうなと感じました。あと自分のお昼休みのためだけに手術室を出た看護師さんたちは人としてありえないなと思いました。

らい予防法がなくなったのにハンセン病に対する悪いイメージがついてしまい、普通の小学校に入学できないという話を聞いて驚きました。ハンセン病を自分ごとのように考えることが大切だと思ういました。

中絶させられた話が一番印象に残っています。もし自分の子供が理由もなく取り上げられると思うと言葉にできない悲しみを感じます。今まで患者の方がどれほど壮絶な体験をしてきたか身をもって感じる事が出来ました。

同じ人間なのに病気を患ったというだけで人間以下の扱いをされていてきくだけでも辛くなりました。

ハンセン病と聞いて正直、自分ごととして捉える事ができませんでした。授業で習う前は差別が酷かった病気ということをし少し知っていたくらいで詳しい内容など分かりませんでした。今日当事者の日記(?)を聞いた時、心が締め付けられる想いがしました。私たちも今のコロナの時代で絶対にこんな差別をしてはいけないと思いました。

ハンセン病の患者さんたちは、ひどい差別をされとても辛く悲しい思いをしたことを聞いてとても悲しくなった。その時代の人たちが、「ハンセン病は怖い病気だ」と思ったのはハンセン病についてよく知らなかったからだと思った。なので、私は今後何か行動をするとき、根拠などを詳しく調べて正しい内容を知っておくようにしたい。

中絶の手術の時に手伝いをしたという話を聞いてなんとも言えない気持ちになりました。人間はそんなにひどいことをさせることが出来るのかと思いました。

ハンセン病について、そしてなぜ差別をしてはいけないかについてよく知ることができた。序盤の、「差別は自分のことになった時によく現れる」という話がとても印象的だった。第三者の立場の際は、ハンセン病患者の方々の側に立っていたのに、いざ自分の学校にハンセン病患者の方々を迎え入れられるかと言ったら、それはできない。言葉だけで、中身がない、本当に悲しいことだと思った。また、桜井さんの話は本当に衝撃的だった。まず、自分の妻の手術をいきなり押しつけられることがどれだけ不安なことか。そして怖い。想像を絶するものだ。そして、田中 喜理子さんの、上の娘として最後まで抱き続けていた話を聞いて子供のホルマリン漬けの話が印象的だった。子供が人として扱われていなくても親の人権が認められていなかったら何の意味もないな思った

自分にも関係あるというのがとても印象に残っています。

子供の話が悲しかったです…。

体験談を綴った小説の内容が印象に残った。
未だに未解決な問題であることに胸が痛んだ。

制限された環境の中でも、小説を書いたり絵を描いたハンセン病患者の方達の行動力が凄いと思いました。患者の方が小説に書いていた自分の妻の中絶手術を手伝わされた、という話が衝撃的で記憶に残りました。今回の話を受け、なんでも他人事だと思わずに自分ごととして捉え考えて行動していくという事を心がけたと思います。

とても興味深い話でした。本日はありがとうございました。

差別は自分ごとになると過激になるということが印象に残りました。

私はハンセン病のことをこれまで過去にあった失敗としかとらえていなかったが、これから同じことが起こった時の教訓という捉え方に納得した。

他の病気と病気という類は変わらないのになぜハンセン病だけ今も問題が続くくらい差別が続いたのか不思議に思うくらいだった。一回差別で傷付いたら一生残るから自分のことと考えようと思った

私は今まで授業で習った出来事や状況しか知らなかったけれど、実際には子供を産めないがために、自分の子供を堕ろさなければいけないとても残酷で悲しい出来事などがあったことを知り、改めてこんなことは2度とあってはいけないと強く感じました。

ハンセン病療養所では妊娠をしても中絶しなければいけないということについて書かれた本の内容がとても印象に残りました。

差別をした側もされた側もその人の人生を奪ってしまうということを聞き、差別やそのきっかけをなくすために少しでも自分達に出来ることをしたいなと思いました。

ハンセン病はかかってしまっただけで治ったらおわりなのではなく、一生閉じ込められて、何も悪いことをしていないのに、やりたいこともできないなんて、とても悲しい人生になってしまうんだということを感じた。周りで差別が起きていたら、他人事ではなく、しっかり自分のこととして捉え、考えたいと思った。

ハンセン病患者の結婚や子供の扱いについての体験談が一番印象に残りました。このような事件を二度と繰り返さないように講演でおっしゃられていた、差別を自分のことに置き換えて考えることを意識していこうと思いました。

中絶の話はとても残酷で悲しい話だと思った。

差別は聞いている分にはなんでそんなことするんだろうと思えるけど、自分のことにもなると差別してしまうことが印象的でした。

差別は自分ごとになるとあらわれるという言葉が印象に残りました。

ハンセン病について何も知らない人たちが差別したり、ハンセン病になっただけで命を奪っているということ

ハンセン病にはかかっていないのにハンセン病患者の子供だということだけで差別をするのはひどいと思った。

法律が決まったのが平成で結構最近だなと感じた。今回みたいな話をみんなが聞いて理解が広まればいいなと思った。

差別がもたらす影響は残酷なことがわかった。被害に遭った方々のお気持ちがとても理解でき、辛かった。今後もこのようなことにならないように自分も心がけたい。

他人に勝手に偏見をもち、差別するのは良くないと思った。

差別はされた側もする側も傷つくということが1番心に残りました。

自分のことじゃないからと言って考えるのではなくよくない差別が起こっていたということをこれからの社会にも伝えていき2度とこのようなことが起きないようにしたいと思いました。

社会の授業でひどい差別を受けていたということは習っていたけれど、実際にどのような差別を受けたのかを聞いてほんとうにひどく、国の間違った政策によって何人もの人生が奪われてしまったのはとても悲しいことだと改めて感じました。

親がハンセン病にかかっただけで、周りに差別され、学校に行けないというのはおかしいと思った。また、子供をつくることが許されないだけでなく、できたら中絶させる、というのも辛すぎるのではないかと思った。

授業で扱ったものよりも、より深くハンセン病について様々なことが学べてよかったです。ありがとうございました。

ハンセン病にかかった人のエピソードや当時の辛さを知ることができた。とても重い話だったけれど、それを通してハンセン病に対する価値観が変わった。もしこのようなことが今起きたら、私は差別などせずになりたいと思った。

ハンセン病患者がどれだけ差別で苦しんできたのかがよくわかりました。

ハンセン病を患って隔離されていても、様々な趣味を見つけて楽しむことが出来ているのがすごいと思った。

差別を少なくするには知ることが大切だと思いました。

施設内での結婚や妊娠の話が酷過ぎて驚いた

黒髪小学校事件のことが特に印象に残りました。ハンセン病がとても危険な病気だと思われていた頃なので、入学を反対してしまう人の気持ちも少しわかります。でも、親がハンセン病だというだけで何の罪もない子供が差別されるのは絶対にあってはならないことだと思います。おかしいと思った人が声を上げることです。少しずつ変わっていったのかなと思いました。

ハンセン病ってだけで差別するのはよくないと改めて感じました

差別は他人事で終わらせるのではなく、しっかりと自分ごととして捉えることが大切だとわかりました

人権差別は他人の今後の人生を壊してしまうと共に、自分にも良くない影響を及ぼすことがわかりました。